

## 活動実績（2022年12月～2023年5月）

【地域活動】  
 ●水辺の植生再生活動：南岸 12/10(土), 3/11(土), 5/13(土), 北岸 1/21(土), 2/18(土), 4/22(土)  
 ●国場川ごみゼロ作戦  
 ・教材体験：長田児童クラブ 3/29(水)  
 ●団体受入  
 ・修学旅行受入：12/4(日), 3/5(日), 5/18(木)

- 出前講座
  - ・沖縄海邦銀行／沖縄県緑化推進委員会「みどりの講演会」：4/28(金)
  - ・美ら夢こども園「末吉公園の自然とホタルの観察会」：5/20(土)
  - ・沖縄キリスト教学院大学「沖縄県内で活躍するNGOの活動・ケーススタディ（環境）」：5/24(水)
- 第8回おきなわ水環境セミナー：12/2(金)

## 活動予定（2023年6月～11月）

【地域活動】  
 ●水辺の植生再生活動：北岸 6/10(土), 以降, 北岸 or 南岸で毎月開催予定  
 ●水辺講座：夏休み期間中に児童クラブなどを対象に開催予定  
 ●国場川ごみゼロ作戦  
 ・自然であそぼ！OEC 子どもの居場所プロジェクト：6/3(土), 7/27(木), 8/23(水), 10/14(土)  
 ●団体受入  
 ・修学旅行受入：6/6(火), 10/3(火),

- 10/4(水), 10/17(火), 10/18(水), 10/19(木), 10/28(土), 11/1(水), 11/19(日), 11/21(火)
  - ・トヨタソーシャルフェス：7/8(土), 10月～11上旬(土)
  - ・エコチル2023夏休み親子体験：8/13(日)
- 出前講座
  - ・沖縄大学：6/15(木)
  - ・かりゆし長寿大学校：10/12(木)
- サガリバナ観賞会：国場集落 6/29(木), 末吉公園 7/9(日), 10(月)
- LINKAGE「地域主体の水環境対策のパ

## 報告⑤ 緑化ボランティア活動

OECは、土地の管理者である沖縄県河川課や南部国道事務所、そして那覇市公園管理課にボランティア団体として登録し、在来植物の再生活動を行っている。今年度も、月1回の活動を定期で開催する。

活動では、サガリバナを始めとする植栽した在来植物周辺の下草手入れのほか、実生からの苗づくりや自然観察などを行っている。継続した水辺の環境保全活動を行うだけでなく、参加するボランティアの皆さんに水辺環境や身近な自然に触れる機会を提供している。

植栽する苗も前々年度はタブノキ、前年度はサキシマハマボウやクワソ

### お知らせ 会員・ボランティア募集

- ・入会申し込みはホームページから
- ・緑化活動をお手伝いしてくださるボランティアを随時募集しております。お気軽にお問い合わせください。

### 達人デリバリー（出前講座） ミライヘ・プロジェクト（団体受入）

TEL 098-833-9493  
メール gyomu@npo-oec.com



### 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



〒902-0075  
沖縄県那覇市字国場 370 番地 307 号室  
TEL 098-833-9493  
FAX 098-833-9473  
ホームページ  
npo-oec.com  
e-mail kokuba@npo-oec.com  
SNS:



自然観察の様子

実生からの苗づくり

- 八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs  
 ・ブックレット「地域の自然を活用した環境教育 第2章 子ども達への環境教育への取り組み」執筆
- LINKAGE @ワカトビ事前調査  
 4/30(日)～5/9(火)
- 【国際協力】
- 受託事業
  - ・JICA研修員受入事業：日系社会研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」：1/12(木)～2/9(木)

- イロット研究：宜野座村、八重瀬町
- ノイズ・バリュー社「黒糖マーケティング委員会」：7月, 9月, 11月予定
- イベント出展
  - ・トヨタソーシャルフェス：7/8(土), 10月～11上旬(土)
  - ・県民環境フェア：11/5(日)
  - ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル
- 【国際協力】
- 受託事業
  - ・JICA研修員受入事業：課題別研修「持続可能な観光資源・開発(自然資源)(B)」：10/9(月)～11/10(金)

# OEC ニュースレター

～自然と環境の保全は足元から！～  
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ（OEC）

vol. 40

2023年6月発行

## トピック① サガリバナ観賞会 2023

5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、感染症対策における個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした対応に変わった。

おきなわ環境クラブ（OEC）が設立以来地域の方々と協力して継続してきたサガリバナのライトアップイベントも、これで本格再開となる。

コロナ期間中に剪定が入り樹勢回復途中の首里崎山町は今年もお休みだが、6月29日（木）に国場集落のガイドツアーと7月9日（日）、10日（月）に末吉公園のライトアップを実施する。初夏の風物詩を家族や親しい友人と愛でる地域イベントとして多くの方に来場いただきたい。（事務局長 立田亜由美）



昨年の末吉公園の様子

## 目次

- [1面]
  - ・サガリバナ観賞会 2023
  - ・地域による水環境保全
- [2面]
  - ・全ての子どもたちに環境学習を
  - ・ガイド紹介
  - ・来日研修再開
  - ・SOLVE活動終了
- [3面]
  - ・マングローブのつぶやき
  - ・国場川ごみゼロ作戦教材体験
  - ・団体受入
- [4面]
  - ・活動実績
  - ・活動予定
  - ・緑化ボランティア活動
  - ・お知らせ



**サガリバナ**  
方言名：サワフジ、キーフジなど  
奄美諸島以南の川沿いなどに分布する。6月から房状に一夜花を咲かせる。

## トピック② 地域による水環境保全が大切

今の中には①「生活排水」と②「赤土等汚濁」、③「陸域の散乱ごみと河岸・海岸の漂着ごみ」など、水環境の課題が残っている。①②③の課題解決には、地域（流域）に住み、そこを利用する私たち一人ひとりの水環境への理解・認識、そして保全のための行動が最も大切と考える。

かつて沖縄の水環境は、豚糞などの事業所や私たちの生活排水、そして降雨時の赤土等の汚濁が著しかった。1972年の本土復帰後、日本の法律と県の条例の施行とそれに基づく排水規制やモニタリングを行い、流域で下水道や浄化槽が整備され、豚糞が廃止や移転したことでの汚濁状況が大きく改善された。しかし、下水道や合併処理浄化槽が未整備の地域では排水処理が不十分なため、今でも川や地下水の汚濁・汚染が課題になっている。

「赤土等汚濁」の問題は流域の開発や農業による土壤の流出が原因であるため、流出源が特定できる川の流域の



マングローブに溜まる河川ごみ  
的確なモニタリングが不可欠であり、これには地域の市町村が主体となつた取り組みが大切である。

「散乱・漂着ごみ」の課題については、「ごみは元から絶たないと無くならない」と言われるように、海岸の漂着ごみは外国など島外から流れ着くものもあるが、陸域の散乱ごみもその発生源であり、私たち一人ひとりによる対策が必要である。

OECは、水環境への理解と認識を広め、地域の行動のきっかけづくりに努めていきたい。（会長 下地邦輝）



降雨時の海岸の赤土汚濁

## トピック③ 全ての子供たちに環境学習を「自然であそぼ！」



「自然であそぼ！」参加者募集チラシ

OECでは「令和5年度子どもゆめ基金助成金事業（体験活動）」のご支援をいただき、「自然であそぼ！OEC子どもの居場所プロジェクト」を実施する。このプロジェクトでは那覇市社会福祉協議会内「子どもと地域をつなぐサポートセンター糸」にご協力いただき、子どもの居場所を利用する那覇市内の小学生を対象に自然体験教室を実施するものである。

全4回のプログラム（6月～8月に3回、10月に1回）実施のほか、那覇市内の子どもの居場所にOEC水辺の環境学習教材も提供するなどして子どもたちにOECの環境学習を体験してもらう予定だ。

OECのプログラムは、地域の児童ク

ラブやこども園など多くの団体にご利用いただいているが、このプロジェクトを通して普段OECプログラムに参加する機会のない子どもたちにも対象を広げ、より多くの地域の子どもたちに環境に関する学びの機会を提供したいと考えている。

5月現在、関係者の皆さまからいただくご意見・ご提案に可能性の広がりを感じながら、6月3日（土）の第1回の実施へ向けて準備を進めている。

（研究員 金城明子）

## トピック④ ガイド紹介 須永真知子さん



ガイドの須永さん

須永さんは、南城市でオリジナルTシャツと手作り石鹼・福木染めのお店「ぷーら」を営みながら沖縄の魅力を発信しているフリーガイド。県外から西表島や那覇市首里、南城市に移り住んだ自身の体験談を織り交ぜた楽しいガイドをされている。

OECとはガイド養成講座をきっかけに出会った。今後の展望をお聞きしたところ、身近な食材を使った料理体験などを提供するべくお店の一角に調理室を作られるとのこと。どのような体験ができるのか楽しみだ。

（研究員 高嶺正満）

## 報告① 来日研修再開～JICA日系研修～

2023年1月12日(木)～2月9日(木)に実施した日系研修は、約3年ぶりの来日研修となった。

研修では沖縄本島各地のほか、八重山研修として石垣島と西表島、慶良間研修として座間味島と渡嘉敷島も訪問した。やはり、実際に現地に足を運び、



沖縄空手会館では空手コースの研修員と合流

人々と交流しながら学んでいる様子を見ると、来日研修の良さを実感した。

研修員の中には、自身のルーツを求めて久米島を訪問したり、県立図書館で家系図を手に入れたりした人もいた。これも来日したからこそできたことである。

講師陣を始め本研修受入にご協力いただいた皆さまに、心から感謝を申し上げたい。

（研究員 金城明子）



6名がコースを修了した

## 報告② SOLVEプロジェクト活動終了

2020年からOECが八重瀬町の子どもたちを対象に環境学習プログラムを提供してきた琉大のSOLVEプロジェクトが2022年度で終了した。

この活動では、琉球大学の地質・岩石、地下水、有孔虫、サンゴの先生方から専門の情報をいただきながら、子どもたちが地域の自然の不思議を発見して科学の視点で謎を調べるプログラムを開発、提供することができた。

活動の成果は冊子『地域の自然を活用した環境教育 沖縄県八重瀬町をフィールドとして』にまとめられた。

## マングローブのつぶやき その22 マングローブの恵み ノコギリガザミ

ノコギリガザミは日本南部を含むインド太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。沿岸性・大型のカニで、重要な食用種でもある。日本には「アミメ」と「アカテ」、「トゲ」の3種類がある。波の静かな内湾や、河口の汽水



西表島で獲れたノコギリガザミ



インダス川河口でカニ漁をする漁師域などに生息しており、マングローブの根元や砂泥干潟、転石帯に大きな巣穴を掘る。英名でマッドクラブ（mud crab, 泥カニの意）やマングローブクラブ（mangrove crab）と呼ばれるのは、泥地やマングローブに多く生息することに由来する。

沖縄ではカニ籠やモリなどの漁で採れたノコギリガザミが、西表島の民宿や那覇の市場で貴重なメニューになっている。私が育った宮古島と那覇湾でもタイワンガザミに混じって、特に「い

さり、カニ籠」漁で同種がよく獲れた。25年前マングローブ植林活動で訪れたパキスタンのインダス川河口域では、同種のカニ漁が盛んで、東南アジアへ輸出する大切な換金水産物として、子どもから大人までカニ漁にいそしんでいた。ノコギリガザミを見る度にカニを食べないパキスタンの人たちと、はえ縄式のカニ漁を思い出す。

（会長 下地邦輝）



インダス川河口でカニ漁をする子どもたち

## 報告③ 国場川ごみゼロ作戦 教材体験

海ごみの原因の一つである川ごみの量を減らすために、河川流域の環境保全に取り組む国場川ごみゼロ作戦では、昨年度に引き続き、水辺の環境学習教材体験を実施中である。

川の河口域の動植物の生態を学ぶ「おきなわ水辺のいきものさがし」では子どもたちがお気に入りの生きものを見つけたり、「国場川クリーンアップすごろく」では川をきれいにするためにできることを考えたりと、子どもたちは楽しみながら沖縄

の水辺環境について学んでいる。

国場川ごみゼロ作戦では、子どもたちの水辺の環境への関心を高め、環境を保全したいという心を育てる取り組みとして、主に小学生を対象として室内での教材体験とフィールドでの体験や実践を組み合わせたプログラムを提案している。

詳細はお問合せください。  
（研究員 金城明子）



那覇市の長田児童クラブの子どもたちが「おきなわ水辺のいきものさがし」を体験



『地域の自然を活用した環境教育』

## 報告④ 団体受入が好調！

那覇市と豊見城市にある計8コースにおいて県外修学旅行生を中心に受け入れている団体受入が好調だ。

昨年12月4日（日）に315名、3月5日（日）に177名、5月18日（木）に78名、計570名の参加者にSDGs体験学習プログラムを提供することができた。特に昨年12月の受け入れは1回の参加人数として過去最多だったが、参加者を5コースに振り分け、総勢16名のガイドにご協力いただき、無事に受け入れることができた。ご協力いただいたガイドの方々に感謝申し上げたい。

最近は問い合わせが増えており、今年12月には再び300名超えの受入予定がある。今後も新たな申込みが入る

ことが予想されるが、これからもガイドと協力しつつ、質の高いSDGs体験学習プログラムを提供していく。

（研究員 高嶺正満）



修学旅行@漫湖水鳥・湿地センター